

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和4年3月15日

事業所名 児童デイビスくろーばー

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0	0	事務所を使用しての個別活動	広く使えているので、今後この広さを活用していく
	2	職員の配置数は適切である	1	3	3		・支援の質を上げるため職員を増やす必要がある。 ・採用し人材育成を行う。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	0	0		施設等が老朽化しないよう整備していく
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	1	0	・支援ノートを作って職員全員がいつでも見られるようにしている ・朝礼やミーティングw活用している ・目標の設定は共有できるようにしている	職員同士、話しやすい雰囲気をつくっていく
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	2	0	保護者の意向等を把握するため、日頃のコミュニケーションを重視している	結果後、改善項目の改善進捗を6、12月の年2回点検を行う
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	0		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1	3		今後外部評価を検討する
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	0	月二回の研修を実施している。 専門性が高まるよう内容を吟味して実施している	外部講師や外部研修を適宜入れていく
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	1	0	・モニタリング会議で利用者情報を共有し作成している ・丁寧な面談を実施し保護者のニーズを拾っている	今後も、面談や適宜なモニタリングを実施し、ニーズや課題の分析を丁寧に行っていく。また面談だけでなく、日頃の様子観察をとらえて変化があれば保護者と随時連携していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0	0		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	2	0	年間、月、週の計画を全体で話し合っている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	0	・リーダー制をとって順番している。 ・活動プログラムの「ねらい」を立てており、その日の支援目標を決めている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	2	0	「ねらい」を定め工夫している。 休日、長期休みには、平日で取り組めないような支援をしている。	コロナ禍で休校、分散登校が続き上手く出来ない月もあった
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	1	0	児童の様子、状況を把握、確認し個別対応の計画を作成している	今後とも、家庭、学校と連携をとり状況把握に努める
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	0	朝礼、昼礼で打合せを行っている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	3	0	支援ノートを活用。 各々のスタッフ業務終了時間が違うので、次の日等の朝礼、昼礼で確認している	支援ノートも活用していく
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	0	モニタリングに活用できるように記録するよう気を付けている	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	0	0	月に全員参加のモニタリングを2回行っている。	
関係 機	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせで支援を行っている	6	1	0	ガイドラインの読み返しを行っている	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	0		
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	7	0	0		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	1	5	医療的ケア児を受け入れていない	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	1	3	該当者がいれば実施している	

	チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
関 や 保 護 者 と の 連 携	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	0	0	該当者がいれば実施している	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2	3	研修を受けている	受けている研修を他職員に周知するようにする
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	1	4	コロナ禍で実施できず	
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	6	0	1	実施があれば必ず参加している	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	0	連携ノートやライン等を使用し、面談も活用し共通理解を持つようになっている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	2	2	事業所で利用者が挑戦し出来たことを保護者に丁寧に伝えている	今後もペアレント・トレーニングの研修を受けていく
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	0	契約時に丁寧に伝えている。また保護者が疑問、確認をもったら説明できるようにしている	日頃の話しやすい雰囲気、コミュニケーションを取っていく
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	0		個別面談の他、保護者の状況に変化があれば積極的に声掛けを行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	1	5		コロナ感染状況を見極めながら行っていく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	0		年に2回、体制整備について周知する機会をもつ(5月、10月)
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	0	月に1回以上会報を発行している	ホームページの案内も行っていく
	35	個人情報に十分注意している	7	0	0	今後も個人情報保護について研修をもち理解を深めていく。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	0	ICTを活用したコミュニケーションを行い共通理解を持つようになっている	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	0	5	コロナ禍で実施できず		
非 常 時 等 の 対 応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	1	0		配布を行い周知していく。複数回配布する(5,7,9月に配布していく)
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	0	火災、地震・津波避難、防犯(不審者)訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	0	年に1回以上実施している。 虐待事案の記事を積極的に共有し理解するよう努めている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	0	2	身体拘束の必要な利用者はいない	身体拘束委員会を設置していく。 必要性が出てくれば手続を踏んでいく。 また拘束した場合は記録に残していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	1	4	対象児童がない 食物アレルギーの子は現時点でいない	食物アレルギーに対応できるよう研修会をもつ。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	0			